

熱意がわたしを食い尽くす

ヨハネ福音書 2:13-22

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

世の中便利になってパソコンやスマホを使えば知らない場所でもすぐにかかったような気にさせてくれます。きょうの礼拝タイトルは「ラテラン教会の献堂」となっています。ラテランってなに、知らないよ（わたしはまったく知りませんでした）そこでグーグルで調べてみたらバチカンからトレビの泉を左に見て3,4キロいったところにラテラン教会がある、ここからだとな町田ぐらいまでの距離、けっこう近いということが分かりました。

<https://www.google.co.jp/maps/place/Basilica+of+St.+John+Lateran/>

ラテラノ教会は4世紀にローマの司教座がおかれローマでの中心教会となりました。そして約100年後のアビニヨン幽閉の後、ローマ教皇とフランス

やイタリアの王との諍いで廃墟となっていたという歴史があります。その後16世紀から18世紀にかけて修復が進み20世紀になってバチカンがイタリア政府と和解して名実ともに復興したという経緯があるようです。

さて、テキストは象徴的な行為としてイエスが神殿でひと暴れする「宮清め」の箇所です。これは四つの福音書に記録されていて、共観福音書ときょう読んだヨハネ福音書ではイエスがやっていることは似ているのですが状況やコメントがずいぶんと違っていています。

イエスは「いい人」としてふるまうことをわたしたちは期待しています。でも、宮清めのイエスは縄を鞭替わりにして神殿で暴れるのですからイメージとしてはずいぶん悪い。共観福音書ではイエスの伝道の最後の時期にこの事件が起きたとされますが、ヨハネ福音書ではイエス伝道の初め(なにしろ2章にでてきます)の出来事として記録されます。どっちがほんとなのよ、という疑問はどうぜん湧いてきますが、決め手となる証拠がないので今のところわかりません。3つの福音書が最後でヨハネだけが最初なのだから、普通感覚でいくと多数決で晩年の事件とするのだろうし、真実は少数意見にある、と思う傾向のある人たちはヨハネ福音書が本当の伝承を伝えているんじゃないかと想像しているかもしれません。

福音書に書いてあるコメントの内容を要約してみます。

<共観福音書> ここは祈りの家なのだから、商売するのはよくない。

<ヨハネ福音書> ここからでていけ、ここは父の家だ、商売するな。

商売に関して否定的なところはすべての福音書で共通しています。しかしヨハネ福音書では祈りの家云々というコメントはなく、そのかわりにこうコメントされています。

2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。

これでは一読して意味がよくわかりません。一方の共感福音書では
11:17 そして、人々に教えて言われた。「こう書いてあるではないか。『わたしの家は、
すべての国の人の／祈りの家と呼ばれるべきである。』／ところが、あなたたちは／それ
を強盗の巣にしてしまった。」

となっていてなんとなく筋はわかります。ここは祈りの家なのだから、商売
などして強盗もどきをやっちゃあダメだ、という意味に取れます。そして深
読みするならば、これは神殿商人達に向けられただけでなく、神殿祭司たち
への批判になっているとも読むことができます。

ヨハネ福音書でもそう読み取ることにはできないことはないでしょうが、でも
素直に読めば、なににいつているのかわからない。弟子たちはなぜ「わたしを
食い尽くす」という聖書のことばを連想したのでしょうか。

これは逆説になっています。だからふつうに読むと意味がわかりません。

わたしもよくやってしまうのだけど、熱心になればなるほど、最初やろうと
していたことからずれていってしまう、おそらくだれもがそんな経験がある
んじゃないかと思います。いいかえれば、真面目にやるとなんかへんになっ
たズレてしまった、という感じです。

たとえば、掃除をしてきれいにするのはいいことで、掃除もしないで汚い
のはよくない、普通はこうなります。でも熱心に掃除していつもきれいにし
ているとその掃除が目的になってしまうことがあります。（掃除がやめられない、
カッパエビセン状態になってしまう、そんな感じです。）

わたしのうちの近所に小さな公園があって、犬の散歩でときどき通りかかる
のですが、その公園がいつもきれいに掃き清められていて、ほうきの目の後
が残り、まるで相撲の土俵のようになっています。そうなるとなかなか犬を
つれてその中にはいることができない、気が引けるのです。

神殿で商売をする、ささげもの用の鳥を売ったり、献金用の金貨や銀貨の両

替をやったり、ひよっとしたらお休み処もあって団子なんかも売っていたりしたかもしれない。それは信者にとっての利便性（コンビニエンス）になっていたかもしれません。マリアもイエス誕生のお礼参りの時、鳩をささげているけれど、その鳩は家から持って行ったのではなく途中の神殿の売店で鳩を買ったかもしれません。（ルカ 2:22 以下参照）

あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす（2:17）

ここでいう、あなたの家とは神殿のことでしょう、その熱意が仇（あだ）となりイエスを食い尽くす、ということとはいったいなんなのでしょう？

「熱意がわたしを食い尽くす」この意味はわたしたち一人ひとりに今も問いかけてられています。

参照：2:17 節は詩篇 69 からの引用となっています。長くなりますが以下全文を記します。

69:1 【指揮者によって。「ゆり」に合わせて。ダビデの詩。】

69:2 神よ、わたしを救ってください。大水が喉元に達しました。

69:3 わたしは深い沼にはまり込み／足がかりもありません。大水の深い底にまで沈み／奔流がわたしを押し流します。

69:4 叫び続けて疲れ、喉は涸れ／わたしの神を待ち望むあまり／目は衰えてしまいました。

69:5 理由もなくわたしを憎む者は／この頭の髪よりも数多く／いわれなくわたしに敵意を抱く者／滅ぼそうとする者は力を増して行きます。わたしは自分が奪わなかったものすら／償わねばなりません。

69:6 神よ、わたしの愚かさは、よくご存じです。罪過もあなたには隠れもないことです。

69:7 万軍の主、わたしの神よ／あなたに望みをおく人々が／わたしを恥としませんように。イスラエルの神よ／あなたを求める人々が／わたしを屈辱としませんように。

69:8 わたしはあなたゆえに嘲られ／顔は屈辱に覆われています。

69:9 兄弟はわたしを失われた者とし／同じ母の子らはわたしを異邦人とします。

69:10 あなたの神殿に対する熱情が／わたしを食い尽くしているので／あなたを嘲る者の嘲りが／わたしの上にふりかかっています。

69:11 わたしが断食して泣けば／そうするからといって嘲られ

69:12 粗布を衣とすれば／それもわたしへの嘲りの歌になります。

69:13 町の門に座る人々はわたしを非難し／強い酒に酔う者らはわたしのことを歌います。

69:14 あなたに向かってわたしは祈ります。主よ、御旨にかなうときに／神よ、豊かな慈しみのゆえに／わたしに答えて確かな救いをお与えください。

- 69:15 泥沼にはまり込んだままにならないように／わたしを助け出してください。わたしを憎む者から／大水の深い底から助け出してください
- 69:16 奔流がわたしを押し流すことのないように／深い沼がわたしをひと呑みにしないように／井戸がわたしの上に口を閉ざさないように。
- 69:17 恵みと慈しみの主よ、わたしに答えてください／憐れみ深い主よ、御顔をわたしに向けてください。
- 69:18 あなたの僕に御顔を隠すことなく／苦しむわたしに急いで答えてください。
- 69:19 わたしの魂に近づき、贖い／敵から解放してください。
- 69:20 わたしが受けている嘲りを／恥を、屈辱を、あなたはよくご存じです。わたしを苦しめる者は、すべて御前にいます。
- 69:21 嘲りに心を打ち砕かれ／わたしは無力になりました。望んでいた同情は得られず／慰めてくれる人も見いだせません。
- 69:22 人はわたしに苦いものを食べさせようとし／渴くわたしに酔を飲ませようとしています。
- 69:23 どうか、彼らの食卓が彼ら自身に罠となり／仲間には落とし穴となりますように。
- 69:24 彼らの目を暗くして／見る事ができないようにし／腰は絶えず震えるようにしてください。
- 69:25 あなたの憤りを彼らに注ぎ／激しい怒りで圧倒してください。
- 69:26 彼らの宿営は荒れ果て／天幕には住む者もなくなりますように。
- 69:27 あなたに打たれた人を、彼らはなおも迫害し／あなたに刺し貫かれた人の痛みを話の種にします。
- 69:28 彼らの悪には悪をもって報い／恵みの御業に／彼らを決してあずからせないでください。
- 69:29 命の書から彼らを抹殺してください。あなたに従う人々に並べて／そこに書き記さないでください。
- 69:30 わたしは卑しめられ、苦痛の中にあります。神よ、わたしを高く上げ、救ってください。
- 69:31 神の御名を賛美してわたしは歌い／御名を告白して、神をあがめます。
- 69:32 それは雄牛のいけにえよりも／角をもち、ひづめの割れた牛よりもなお／主に喜ばれることでしょう。
- 69:33 貧しい人よ、これを見て喜び祝え。神を求める人々には／健やかな命が与えられますように。
- 69:34 主は乏しい人々に耳を傾けてくださいます。主の民の捕われ人らを／決しておろそかにはされないでしょう。
- 69:35 天よ地よ、主を賛美せよ／海も、その中にうごめくものもすべて。
- 69:36 神は必ずシオンを救い／ユダの町々を再建してくださる。彼らはその地に住み、その地を継ぐ。
- 69:37 主の僕らの子孫はそこを嗣業とし／御名を愛する人々はその地に住み着く。
-